

平成29年度第1回瀬戸市女性活躍推進及び男女共同参画審議会議事録

◇日時：平成29年度7月27日（木）午前9時30分～10時30分

◇会場：市役所4階庁議室

◇出席者：（順不同敬称略）

＜審議会委員＞ 東村博子 鳥居粧滋 松下絵美 大橋良宣 村瀬毅 中井康代 中村貴美子
右高恭子 萱岡愛 宮地千波 青山一郎

＜市＞瀬戸市長 伊藤保徳

（事務局）交流活力部長 横山彰 交流学び課長 田口浩一 課長補佐 井上紀和
学び係長 戸田律子 主事 吉田晶男

◇欠席者：（順不同敬称略）

＜審議会委員＞ 杉山仁朗 横井寿史 山本隆三

※新委員へ委嘱状の交付（3名）

1 平成29年度瀬戸市男女共同参画推進体制について

事務局より資料1に基づき説明を行った。

2 トライアングルプランⅢの進捗状況について

資料2に基づき事務局より進捗状況の説明を行い、委員からの質疑及び意見交換を行った。

3 女性活躍・男女共同参画推進に係るスケジュール等について

事務局より資料3に基づき平成29年度の事業計画について説明を行い、委員からの質疑及び意見交換を行った。

（意見等内容）

◆トライアングルプランⅢの進捗状況について

【会長】現時点で重点的に進んでいる取組について報告していただきたい。

→【事務局】7月1日に市長が市民活動団体主催の「ままのわフェスタ」というイベントにおいてトライアングルプランⅢについて述べた。本審議会の横井委員と中井委員にもご参加いただき、キックオフできた。各事業は担当部署にて進められている。

【委員】小さな子どもがいる家族を対象としたイベントであった。男女共同参画、というと堅苦しく伝わらないところもあると考え笑いを交えた寸劇を行った。劇中で、例えば生活の一場面にこういうことがあるよね、という視点から伝えることで、新たな気づきに繋がれば広く周知するきっかけとなったと思う。

【会長】行政と市民とのコラボレーションとしても、また寸劇を取り入れたことも親しみやすく効果的だと思う。さて、ツクリテ支援事業での空家対策の進捗状況はどうですか。

→【事務局】制度を立ち上げたばかりで現在は募集中である。

【会長】他の自治体には無い興味深い取組である。性別からのアプローチとは違い、多様な働き方を支援することで男女共同参画社会を目指すものとしては目立つと思う。

瀬戸市の人口推移について聞かせてほしい。若い女性が関東地域へ流出しているという課題は愛知県全体にあるが、瀬戸市としてはどうか。それにともない若い世代の増減についてはどうか。

→【事務局】人口は全体的に減少傾向にあり、人口比率は高齢者が多く若い世代は少ない。そういった状況から、若い世代を呼び込むためツクリテ支援や定住促進につながるような施策を第6次総合計画において位置付け取り組んでいるところである。

【会長】そういった現状もあるため、女性の活躍推進に始まり、子育て世代が瀬戸市に定着したくなる、または外から入ってきたくなるような魅力的なまちづくりが大事である。今、瀬戸は将棋などいろいろなところでフィーチャーされているので、歴史ある町ということだけでなく「魅力的な瀬戸市」をどうアピールするのがポイントである。そういった観点からのご意見はありますか。

【委員】瀬戸監督署管内（瀬戸市・尾張旭市・長久手市）の職場定期健康診断結果は、有所見率が高い。愛知県平均や全国平均より高くなっている。人口の平均年齢が高く、名古屋市まで30分足らずで行けるベットタウンであるのに若い人たちが流出している。長久手市は平均年齢が30代後半と比較的若い。また、今秋にIKEA長久手店がオープンするが雇用条件が魅力的で求職者からの人気が高いようだ。

【会長】貴重な情報ありがとうございます。大府市も名古屋へのベットタウンとして人口が増えている。子育て世代が増えている理由は土地が名古屋市内や近隣市町より安いことや障がい者教育などに期待があるとのこと。瀬戸市も外から入ってきたくなるようなイメージキャンペーンを打つといいのではないかと。市民啓発も非常に重要だが、シンボリックなキャンペーンでより広く「瀬戸市」を宣伝する時が今なのではないか。

【委員】決して瀬戸市の子育て環境や瀬戸市の教育が近隣市町と比較して劣っているということはないと思われる。では、今何が足りないのかということと瀬戸市の魅力をきちんとシティープロモーションとして発信していくことが課題であると認識している。現在、市内に定住促進のタスクフォースを設置し、市全体として横断的に定住促進やまちの魅力の発信手法等について検討しているところである。

【会長】具体的な動きとしてはどういったことがあるのか。

【委員】例えば子育て部門で申し上げると、担当部門のみならず市全体で横断的にプロモーションを展開していく、といったことなど検討しています。

【会長】目玉プロジェクトが「見える化」することやマスコミに取り上げられると費用対効果的には良いため、ある程度費用をかけ実施していくべきと考える。魅力的な瀬戸市のまちづくりの一環として「すべての人が輝くことができる施策」をたくさん行っているがそれが見えないということではなく、何か一つの目玉事業がフォーカスされそこから瀬戸市の魅力が広く伝わると良い。

【委員】瀬戸の良さは、地域の温かさや地域とのつながりが濃いことだと思う。子どもは地域の宝といった意識があり、地域・学校・家庭間の関わりも良好で子育て世代には住みやすいまちといえるのではないかと。そういったことも他地域の方々に知っていただきたい。

【委員】地域での取組というのは他と比べても進んでいると自負しているが、これは「瀬戸方式」とも言われる程の特色で、昔から公民館自らがその地域において積極的に活動を行ってきたことは、他の自治体などからも参考にされている。熱意を持ちコツコツと積み上げてきた取組について

も、今後シティープロモーションの中でやっていきたいと考えている。

【委員】瀬戸の温かみは大変感じている。それを、外から見たときに感じられるかというところだろうか。瀬戸のみなさんは奥ゆかしいので、もっと外に発信していくことやPRしていくことがあってもよいと考える。その際は、分かりやすく発信していくことがこれから先に繋がっていくのではないかと。

【会長】前向きなご意見ありがとうございます。現在も行っているいろいろな事業に多くの人を呼び込めるように、全国的にも取り上げられるような「瀬戸モデル」ができると良い。一例ですが、私は名古屋市のワークライフバランス委員会の委員長でもあり、名古屋市において「名古屋モデル」というものを提唱した。それは、企業向けに啓発したいという目的により取り組んだものである。企業ごとに職種・規模・実行性・効果などが異なる中で、それぞれの企業が自社に適した取組を行い、その取組内容を募り市のホームページで紹介するという啓発と企業の宣伝を兼ねたものを提案したところ、好評で様々なところで取り上げられた。その「瀬戸モデル」をつくったらどうか。ネーミングは瀬戸らしさが感じられるよう「瀬戸」を意識したものになるとよい。

【委員】金融機関の全国研修に参りますと、今でも瀬戸内海の瀬戸と思われることもあり少々ガッカリする。これからは、将棋の藤井さんのおかげでそんなこともなくなるかもしれないが、人口減少・流出を食い止めるために何とかしなくてはいけない。子育てしやすいまち・環境ということでぜひPRを積極的に行っていただきたい。

【会長】限られた税金を効果的に使うことが大切。人口増・産業活性化が税収増へも繋がるため瀬戸市への定住PRのキャンペーンに期待したい。ところで、瀬戸市の観光客の集客具合はどうか。

→【事務局】インバウンドで年々増えているところだが、瀬戸市内観光のみで丸1日を過ごすための観光アイテムは不足している。他の地域と連携を取りながら観光面の醸成を図っていきたいと考えている。4月26日に、瀬戸市も六古窯として日本遺産登録されたことも含め、今後もやきもの文化を中心としたストーリー性から市内回遊を発展させていきたいと考えている。

【会長】性別に関わらず誰もが輝けるといったところと、若い人・子どもたちが増えることとは直結すると思われるので、包括的に頑張って取り組んでいただきたい。

【委員】瀬戸焼は千年以上の歴史があり、ポテンシャルが高い。PRではそういったところも自慢できる部分と考える。

【委員】外から見た瀬戸市、といった観点をもち啓発やPRを行うことが必要と考えるが、そのあたりはどうされているか。

【委員】そのとおりの外部からの視点は非常に大切である。ターゲットごとにプロモーション方法も考慮するなど検討していきたい。今日は貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございます。

【会長】本日の協議内容が今後活かされるよう期待しています。

4 その他

事務局より、次の事項の連絡を行った。

- ・今後の会議等スケジュール